山田・尾崎・城内・屋形尋常小学校編

山江村誌資料①

山江村郷土誌

付　山田村地誌
　　万江村地誌

山江村教育委員会復刻

※題字は山江村長、田村俊明による。

用いた。
五、本文中、明らかに誤字の場合でも、訂正及び修正は行わなかった。
六、口絵・写真は、山江村役場をはじめ万江小学校・山江中学校・万江阿蘇神社・田村俊明・久保田艶子・木下久人氏から提供を受けた。
七、本書の題字は、山江村長田村俊明が書いた。
八、本書の編集は、山江村教育委員会村誌編纂室の菖蒲和弘が行った。

『山江村郷土誌』目次

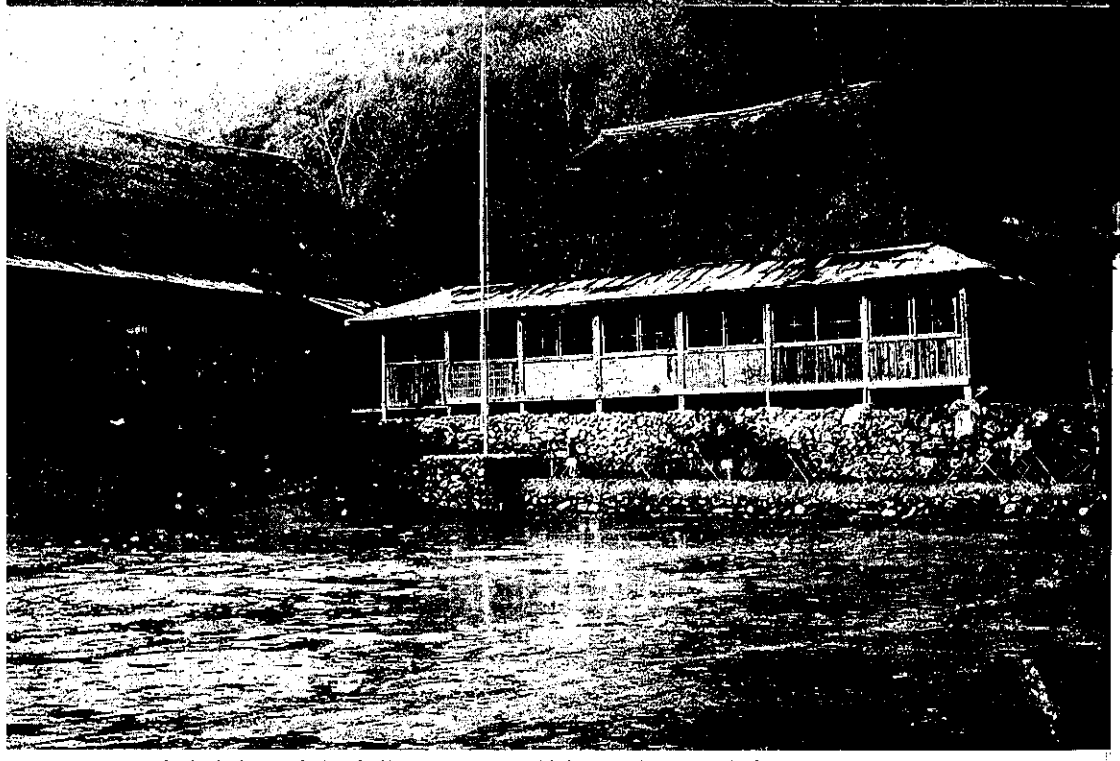
山江村長　田村俊明
山江村誌編纂室

『山江村郷土誌』の復刻に当たって
まぼろしの『山江村郷土誌』を復刻

凡例 …… 1
熊本県公文 …… 3
熊本県公文第四類雑件 …… 9
肥後国求麻郡四十村地籍産物寄 …… 17
肥後国求麻郡第十四大区地誌物価調 …… 23
肥後国求麻郡第十四大区三小区山田村地誌 …… 37
肥後国求麻郡第十四大区二小区万江村地誌 …… 47
山江村郷土誌 …… 155
球磨郡町村紹介・山江村 …… 155

山江村教育長　田村四郎

さいごに



上：万江消防青年連合体育祭　　下：西福寺にあった城内小学校

上：旧山江村役場(大正時代)　　中・下：旧山江村役場（現 中央公民館）

第三節　口牌伝説

一、地名に関するもの

イ、山田名称の由来

山田小学校を距る北東一町の所に、一畝足らずの水田あり。是れこの山田部落に於ける最も古き耕田にして、往昔森林渓谷中にこの田あるのみなりと、再来年と共に漸次水田開け、現今の当部落内に於ける最も広き、耕地良田を成す所となれり。

山田の名称之の一田によりて、名つけられたりと言ひ伝ふ。

ロ、日向瀬名称の由来

口牌によるに、往昔山田部落全部欝蒼たる大森林にして昼尚暗かりき。僅かに人口に日光の射る所あり、土人之れを日向(ひなた)と称へ地名となれりと、今山田部落に通ずる里道に当り、川に架するに橋を以てす。日向橋（明治十九年架橋）と称せり。

ハ、合戦峯（或は勝が峯）名称の由来

山田郷入口の部落にして、仰烏帽子岳東支脈の人吉町附近平坦地に延びて、全く尽くる処の一丘岡地たり。

人吉町より山田部落に通ずる里道、此所にて一つの坂傾をなす。伝へ言ふ昔（年代及対陣者不明）或る合戦に於て勝利を得たる古戦場たるの故を以て此の名ありと。

合戦峯より山田川を隔てゝ一の丘陵に対す、是山田、万江の境をなせる中央支脈の尽くる終点丘岡なり。現今北峯と称する一地名なり俗に之れを「退ひたが峯」と称す。伝へ言ふ敵軍敗を取り陣を退ひたる古戦場たる故に之を名ありと。

二、湯気原及湯原字名の由来

大村大字山田字尾寄崎（分教場所在地にして、烏仰帽子岳の麓にあり本校を距る四里余の地点）小字湯気原（ゆのけはい）と称する所あり。伝へ言ふ昔温泉の湧出せし地なりと。

茲に又山田校を距る約二十町の処に、字湯の原と称する部落あり。